

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価 2016年版、名古屋地区評価方法と評価マニュアル2016 ■ 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)瑞穂プロジェクト(南ブロック)	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋瑞穂区春鼓町三丁目18-1,18-2・大喜新町三丁目5-1,5-2	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年09月15日
敷地面積	12,143 m ²	作成者	
建築面積	3,392 m ²	確認日	2022年10月18日
延床面積	5,942 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.1 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境品質 G 環境負荷 L BEE = 1.0	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q のスコア = 3.0		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) Q1のスコア= 2.8 Q2のスコア= 3.5 Q3のスコア= 2.7	LR のスコア = 3.1 LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境 LR1のスコア= 3.2 LR2のスコア= 2.8 LR3のスコア= 3.4		

3 設計上の配慮事項	その他	
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO₂排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	特になし	
Q1 室内環境 開口部遮音性能:T-2以上。 ビル全体の禁煙が確認されている。	Q2 サービス性能 階高:4.3m。 0.1≤[壁長さ比率]<0.3 レストスペースが売り場面積の4%以上	Q3 室外環境(敷地内) 緑化率は敷地に対して20%確保、 在来種をメインに樹種選定した。
LR1 エネルギー BPI_{lm}=0.81。 BEI_{lm}=0.86。	LR2 資源・マテリアル 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 適切な台数の自転車置場(バ、ワ置場合含む)及び駐車場に加えて、荷捌き車両の駐車施設も確保している。 日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)瑞穂プロジェクト(南ブロック)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。